

2015年3月26日～27日、コープふくしまの協力のもと、富山県生協とCO・OPとやまの組合員・役員39人が福島県で復興支援視察交流ツアーを行いました。

被災地を回り、仮設住宅にお住まいの富岡町の皆さんと交流を深める視察に同行し、参加者に復興支援への思いを伺いました。



富岡駅前の慰霊碑の前で黙とうする参加者たち。

富山県内の生協が協力し 福島への支援を考える

「この視察交流ツアーをきっかけに、CO・OPとやまと富山県生協が力を合わせてもつともつと福島への支援に取り組んでいけたらと思っっているんです」。富山県生協・総合企画室・次長（取材時はネットワーカー部・統括課長）の森内紀之さん（もりうちのりゆき）はそう話します。

富山県生協とCO・OPとやまはこれまで、それぞれ福島への復興支援に取り組んできました。富山県生協連が主催する「福島の子ども保養プロジェクトinとやま」に両生協が参加して組合員・職員が顔なじみになり、「県内の復興支援活動をさらに高めるため一緒に取り組もう」と、福島への視察交流ツアーを合同で行なうことを決めました。

今回のツアーは、コープふくしまの協力のもと開催されました。全国の生協からのこうした視察の申し込みは、年々増えているといいます。

コープふくしま・生活文化グループの松崎美智子さんは「全国の生協の皆さんに福島に関心を持ってもらっています。被災地に来ていただく、そこで頑張っている皆さんが元気になるんですよ。私たちもそ

次の支援につなげるために 福島復興支援 視察交流ツアー

富山県生協 CO・OPとやま コープふくしま



仮設住宅では、福島県や富山県の風習や文化の違いを話し、交流を深めました。

津波で大きな被害を受けた富岡駅は、駅舎や屋根などが撤去され、ホームの後方には黒いフレコンバッグに入った除染廃棄物が見えます。



の様子を見て力をいただければ」と話します。

震災の爪痕が残る 富岡町などを訪問

富山からの参加者は、これまでも震災後に福島を何度も訪れて継続した支援を考えている人、福島の復興状況を知りたいと仕事を休んで初めて参加した人など、さまざまです。

1日目の26日は、東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響で、今も震災当時のままの建物などが多く残る富岡町を視察。コープ



富山県生協 清水順子さん
「富岡町の皆さんに富山の県花であるチューリップをお渡ししたところ、気持ちごとく喜んでいただきました」



CO・OPとやま 原正昭さん
「福島県で購入したお土産の海産物を食べながら、友人に話したいと思います」

くしまの理事・日野公代さんが、原発事故以降に数が増えているイノブタや、町のあらゆる場所で山積みになっている除染廃棄物などについて説明しました。富岡駅前を視察した参加者の一人は「言葉にならない。自分だったらどう行動するのだろうか……」とぼうぜんとしていました。

続いて訪れたいわき市の仮設店舗「浜風商店街」^{※2}では、富山県生協・非常勤理事の清水順子さんが商店街で働く女性にお土産を渡ししました。同生協で東日本大震災復興支援実行委員会の委員長を務める清水さんは、3回目の福島訪問です。

「以前訪れたときに知り合った皆さんに、『また来ましたよ、いつも応援しています』と伝えたくて、コープ商品の口紅をプレゼントしました。口紅をぱっと明るくしてわくわくした気持ちになってもらいたいですね」（清水さん）

仮設住宅での交流を 次の支援につなげる

2日目は、郡山市緑ヶ丘の仮設住宅にお住まいの富岡町の皆さんと交流しました。仮設住宅での交流は、富山県生協とCO・OPとやまの「仮設住宅での困り事を教えて

もらい、次の支援につなげたい」という強い要望があり、実現したものです。

緑ヶ丘仮設住宅の自治会長・北崎一六さんは、「今、仮設住宅では高齢者の健康状態が問題になっています。異変に気付くには、顔を見て話すことが一番です。今日は、生協の皆さんとお話をしてみんなが元気をもらえればと思います」とあいさつしました。参加者は、富岡町の皆さんから今のくらしぶりや趣味などの話を伺い、交流を深めました。

CO・OPとやまの組合員の原正昭さんは「生協の視察は、震災で起きた問題に向き合い、被災した方に直接お話を伺うこともできとても勉強になります。今回の視察のことを友人にも話したいと思います」と2日間を振り返ります。

そして、合同で行なった視察交流ツアーについて、多くの参加者から「今後も富山県生協とCO・OPとやまが一緒に取り組んで、もっと幅広い支援活動をしたいですね」と次の支援に向けての期待の声が寄せられていました。



富岡駅の近くの賃貸アパート。津波の高さは21mを超えたともいわれています。



浜風商店街の皆さんは温かいコーヒーや試食用意してくれました。

※1 イノシシとブタの雑種。原発事故の影響で避難区域となっている地域では、イノブタなどが農地や住宅を荒らし、問題となっている。
※2 東日本大震災で甚大な被害を受けたいわき市久之浜の商店街が、久之浜第一小学校の敷地内にオープンした仮設店舗。